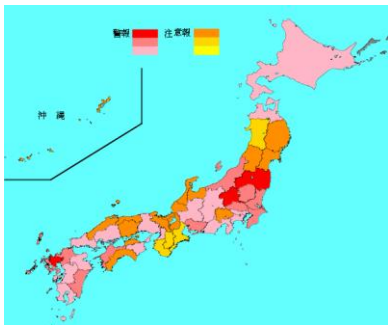


保健だより

2013年2月1日（金）発行

インフルエンザが流行しています。



インフルエンザ流行レベルマップ（2013年1月23日現在）

インフルエンザの報告数は増加傾向が続いています。2013年第3週の患者報告数は急激に増加しました。全国の医療機関に受診した患者数（推計）はこの一週間で約140万人となり、5～9歳約20万人（14.3%）、30代約19万人（13.6%）、0～4歳、10～14歳、20代、40代がそれぞれ約16万人（11.4%）の順となっています。ウイルスはA香港型が最も多く検出されています。

（出典：国立感染症研究所）

〒252-0326 相模原市
南区新戸5195-4
サンガこども園
電話046-255-0148



流行が本格化し、多くの学校で学級・学年閉鎖が行われていて、注意報から警報のレベルに近づいているようです。

・【インフルエンザにかかった時の登園のめやす】

「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後3日を経過するまで」（2012年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン（厚生労働省）より）となりました。

・【日数の数え方と根拠】

「発症した後5日を経過し」とはインフルエンザによる発熱が出た日は数えず、その翌日を第1日目とし、第5日目の翌日から登園可能、「かつ、解熱した後3日を経過するまで」とは解熱を確認した日は数えずその翌日から3日間休んでから登園可能ということになります。それは次の理由によります。

インフルエンザの治療薬は近年素晴らしく進み、飲む薬や吸入をする薬などが出てきています。インフルエンザワクチンに対する考え方も、重症化を予防するという観点からとても有用ということが浸透されて、多くの方がワクチンの接種を受けています。しかし、薬の進歩はある意味困った現象を引き起こしました。それは診断する手段もなく治療する薬もなかった時代に決められた解熱した後二日を経過すれば登園してもよいという以前の学校保健安全法の規則でした。ワクチンと治療薬を使えば2ないし3日で熱が下がってしまうのでした。この人達がウイルスをばらまき続けるのでした。薬を使ってインフルエンザの治療をした人は熱が下がっても発熱してから5日間はウイルスをばらまき続けるというデータがあるのです。

暖かく過ごす服の上手な着方

寒い冬を暖かく過ごすには・・・

- ① 服と服の間に空気の層ができるよう素材の違う服を重ねて着る。
- ② 下着は毎日とりかえる。
- ③ 体温で温まった空気を逃がさないような首元、そで口がしっかりしたものを着る。
- ④ 靴下をはく。



ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンが定期予防接種へ

2010年度から2年間の限定で無料で接種することができたヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンが来年度から定期接種となることが確実になりました。一步前進ですが、諸外国から比べると日本はまだまだ予防接種後進国です。接種料金が高いために、ワクチンがあるのに接種をためらい、子どもに障害が残ったり、命を落としたりすることのない時代が早く来ることを願わずにはられません。